

オミクロン株 2週間で分かったこと

ワクチン効果

重症化例

感染力
強

少

薄

新型コロナウイルスの新たな変異株を世界保健機関（WHO）が「オミクロン」と命名し、警戒対象に加えてから十日で二週間。ウイルスの性質に関する研究成果が各国で出始めた。当初、専門家が予測した通り、感染力が強く、ワクチンが効果にくい可能性が濃厚だ。一方で、重症例は比較的少なく、ワクチンを打てば予防効果が得られるとする報告もある。ただし、まだ結論が言える段階ではなく、さらなる解明が待たれる。

▽凌 鶴
オミクロン株を巡る主な疑問は「感染力は強いのか」「ワクチンや薬は効くのか」「重症化しやすいのか」など。

新型コロナの感染はワクチンの接種の進み具合や環境、季節などの影響を受けられる。このため、感染力の直接比較は難しいが、現在のところ、感染力はデルタ株を上ぐとの懸念が強い。

WHOによると、南アフリカでは五日までの一週間の感染者は約六万二千人で、前の週の倍以上。国立感染症研究所の脇田隆字

は、「ワクチンの効果を巡っては、南アのアフリカ健康研究所のチームが七日、効果が弱まる可能性を示す研究を公表した。米ファイサー

全容解明はまだ先

※9日現在、単位は人、感染者の多い国はアルゼンチンの主な国。

米国	4953万8947 (79万3228)
インド	3466万6241 (47万4111)
ブラジル	2216万7781 (61万6251)
英国	1067万1608 (14万6444)
ロシア	972万2639 (27万9280)
インドネシア	425万8340 (14万3909)
タイ	215万6587 (2万1084)
韓国	49万6584 (4077)
オーストラリア	22万3925 (2082)
中国	11万2002 (4849)
世界全体	2億6788万0128 (528万0456)

製ワクチンを接種した人の血液を使い、ウイルスの増殖を抑える実験を実施。参加人数は一人と小規模だが、昨年春以降に広まった

ウイルスと比べると、オミクロン株ははるかに抑えにくく」とが分かった。

既に新型コロナに感染したこと)で付いた免疫が、オ

ミクロン株に対して十分に働かず、再感染しやすくなっている」とを推定する研究もある。

一方で、ファイサーは八日、同社のワクチンの三回接種により、オミクロン株の感染を予防する効果を期待できるとの暫定的な研究結果を発表。「回接種では感染を十分に防げないが、重症化は防げるとの見方も示した。

▽症状
症状はそれほど深刻ではないとの報告もある。オミクロン株が集中的に見つかりっている南ア・ハウテン州ツワネ地区の病院のまとめでは、十一月十四~二十

日、同社のオミクロン株の重症度はまた違つて見える

日本でのオミクロン株の感染確認はこれまでに四

事例。いずれも検疫で見つか

つており、感染拡大を示唆する報告はない。脇田所長

は「日本は水際対策である

程度時間を稼いでいるが、これまでの経験から考えてみると、いずれ(市中)感染例がでてくる」として、検査や診断、治療体制を整備するよう求めている。(ワシ

ントン、東京・共同)